

皆様こんにちは。西宮RC北山様、西宮恵美寿RC久保様、ようこそお越しくださいました。本日は朝野会長の代理で会長の時間を務めさせていただきます。

今日は10月31日という事で、近年ニュースなどで話題に取り上げられているハロウィーンについてお話しさせていただきます。

本来は秋の収穫への感謝と当時の年次の終わり、更に季節の節目という事もあって悪霊を追い払う為に行われた宗教的な行事だったとされています。

悪霊を追い払う為にカボチャに恐ろしい顔を彫ってその中に蝋燭をともしたり、(ジャック・オー・ランタン)子供達が魔女やお化けに仮装して近所の家を訪れてお菓子をもらう風習とされています。家ではくりぬいたカボチャでお菓子を作り、子供達は集めて来たお菓子を持ち寄ってハロウィンパーティーを開いたりする訳です。

ハロウィーンそのものの歴史はそれ程長くは無く、西暦 1800 年頃からとされていて、一部のイギリス流の文化圏での行事とされていましたが、1900 年代に映画やテレビCMの影響でアメリカ全土に広まったそうです。子供達がお菓子をねだりに行く家にもルールがあるようで、玄関の電気を付けている家は訪問しても良いという意思表示だそうです。

最近国内でハロウィーンの仮装をして繁華街で騒いでいる映像を見る事が多いのですが、この習慣については単なる流行として廃れて行くと思っています。

すでに犯罪が起こっていたりもしますが、儀式やお祭りといった行事の運営には大きな犠牲を伴う労力が必要となりますし、金銭的にも負担があります。これらの壁を乗り越える為には高い社会貢献性があるか、または大きな経済的利益を生むか等の要素が無い限り、継続する事は難しいと考えられるからです。